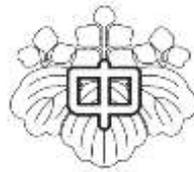


# われらの道



令和8年3月23日発行

文責 附属中 加藤 克人

## 学校評議員会

3月2日(月)に第2回学校評議員会・学校関係者評価委員会が行われました。若桐後援会理事長の秋山忠也様、丹波山村教育委員会教育長の吉野喜久男様、元附属中PTA副会長の柳澤瑞穂様、附属中PTA会長の重岡志帆様、PTA副会長の飯島香様に学校評議員を担当していただいております。

学校評議員制度は、学校が、保護者や地域の方々の信頼に応え、家庭や地域と連携協力し、一体となって子どもの健やかな成長を図っていく観点から、より一層地域に開かれた学校づくりを推進していくためのものです。

学校関係者評価委員も学校評議員の5名の方に兼任していただいております。この委員会の役割は、学校から自己評価書に基づいて説明をし、評価委員のみなさまに意見をいただき、学校としての改善の取組に生かしていくものです。

委員のみなさまからは、様々な角度から意見をいただきました。今後の学校運営に生かしていきたいと思っております。

## 3年生に贈る会

3月5日(木)に3年生に贈る会が行われました。1・2年生が、3年生への感謝の気持ちを伝え、新たな出発にあたってエールを贈ると共に、3年生から生徒会を引き継ぐ自覚を養う会です。

テーマは『Flight』。3年生が次のステージへと飛躍し、新たな空に飛び立ってほしいという願いが込められていました。総務部門、進行部門、招待状部門、記念品部門、装飾部門、スライド部門、発表部門、応援部門とも工夫を凝らし、すばらしい活動を行いました。

## 卒業証書授与式

3月11日(水)、第78回卒業証書授与式が行われました。142名の卒業生が巣立ちました。

今年度、様々な活動が3年生を中心に実施されました。附属中学校の伝統を再確認し、守り・伝えてきたという自信を胸に、これからの人生を歩んでいってほしいと思います。



今年度の活動が充実したものとなりましたのは、卒業生の力とともに、保護者のみなさまのご支援とご協力が得られたからに他なりません。ここに心よりの敬意と厚い感謝の気持ちをあらわします。

## 出会いと別れ

人生には出会いがある。同時に、別れもつきものだ。学校帰り、友人と手を振りながら交わす毎日の別れ。今まで住み慣れた場所を離れる別れ。進級、卒業の別れ。

「さようなら」は、「さようならば」という言葉の「ば」が省略され、あいさつの言葉になったものだ。「さようならば」の意味は、「そういうことならば」で、昔から別れの場面で多く使われていた。その結果として、「さようなら」に別れのイメージが定着した。

別れは、いったん立ち止まって、これまでのことを確認し、次のことを始める節目と昔から考えられていた。「今まではこうだったから、さようならば(そういうことならば)、これからは～しよう」、ひいては、「もしかしたらもう二度と会えないかもしれない」という思いから今この時を大切にしようという気持ちにもつながるものだ。

3月、生徒が卒業、進学した教室は、ひんやりとした空気が占領している。

でも、その教室の中で、ゆっくりと鼻をきかせれば、生徒が残していった思い出の数々の香りをかぐことができる。

でも、その教室の中で、じっと耳を澄ませてみると、生徒の笑いざめく声と「さようなら、先生」という声がしっかりと聞こえてくる。

新しい春がやってくる。

二十四節気

今季節は、

春分(しゅんぶん)3/20~4/4 ごろ

昼と夜が同じ長さになる日であり、自然をたたえ、生物をいくしむ日とされています。多くの出会いや別れがあり、新生活の始まりなど変化が多いのもこの時期です。

清明(せいめい)4/4~4/19 ごろ

万物が清らかで生き生きとした様子を表した「清浄明潔」という言葉を訳した季語です。花が咲き、蝶が舞い、空は青く澄み渡り、爽やかな風が吹く頃です。